

毎月一回十五日發行(定價一部五錢一年郵稅共五十錢)



編輯 森野 山田 二市 郎 校會 社

### 滿蒙

日支事變は我國の生命線である滿洲の國際通路滿鐵線が九月十八日夜半に破壊されたことによつて勃發した、これより先き支那は我國に對して侮蔑の態度を持し、事毎に反抗し我が國が滿蒙を今日の如く開發した恩恵も忘れて我に對して暴狀の限りを盡したのである。

今日のニュースを開けば幸ひにして上海戦域も一段落となり、滿蒙には新國家の成立を見るに至つた、戰爭を回避すべき國際聯盟が反つて戰禍を長びかせ平和克復を遅延せしめるのは誠に遺憾とするが、今後第三國が盲動をしない限りこの邊で落付くことかと思はれる。

滿蒙新國家の建設と今後の動向に就いては誰が等しく注目するところである、本紙においても幸ひ滿洲の湯川池田兩氏より寄せた事變直後の事情を報ずることが出来たが、聞くところによれば内地より滿蒙へ、滿蒙へといふ聲が勃然と湧き上つてゐるやうである。

滿蒙の地は再度の戦役に忠勇なる幾方の將士が屍にかへし土地である他國は勿論支那と雖どもみだりに蹂躪するを許すべきでない、けれども我においても決して私すべきものではない、建國の宣言にもある如く全住民の共存共榮の地でなければならぬ。

只漫然と滿蒙へゆく、そして甘い汗を吸はうとする、かやうなものに滿蒙の成育、延いて我國の發展を阻害するバチルスである。

### 製絲經營の現状と將來の經營觀念

小林 啓 介

製絲經營は鑛山企業と異り其損得は二百萬の養蠶家が分擔してくれるのだから比較的安泰である様に思はれた、然るに此の考へは事實に於いて全く裏切られた。

はねばならぬ様になると弾性の制限外となり危険點に入る様である、其倒産の影響の甚大なる之に關係せざる人の想像も許さぬ位である、然も餘り社會問題化した事を見ない、可憐な女工の賃金でさへも而も行政官廳が貯蓄金管理規定の下に保證人迄立てさせて認可制度により其管理を工場主にさせながら不拂になつても行政官廳で其責任を負ふた事を聞かない、工場主の横領罪は構成しない

山本三六郎著 化學純絹絲の工業的完成 ¥0.30

伊太利蠶絲絹業の現況退原因と其修正 市田上縣野長 會究研學科絲蠶 所行發 (振替長野6413番)

蠶絲業法規要論 ¥2.30

蠶絲業法規要論 ¥1.50

となり滿蒙の土となるものでなければならぬ、誰かが資財を持つてゆければならない、技術を持つ必要もないけれどたゞ心に大なる覺悟を持つてゆかななくてはならぬ、すでに滿洲に在る某氏でさへも新たに田世雄と改名して滿洲國人になる由である。滿洲人になりきらなければ滿洲へ行つて成功することは難い。

同胞の人柱を埋め、幾億金の基礎工事をかけた處或は立派な建物を築くも或は草をべんべんと生すも、かつて同胞の双肩にあるのである。滿蒙へ、滿蒙への聲漸く注んじんとするとき我等は同胞の發展を祈ると共に一大覺悟を要望するものである。

のかさせないのかと僕等の様な頭の悪いものにはわからない、今より七、八年前當方より頼んだと言ひながら甲より乙の工場へ鞍替するに移轉金とか稱して十回二十回さては五十回の不勞所得を懐に入れて猶横柄な顔をして居た其同じ額で前年の賃銀も丁度にもならないで猶又其同じ工場に食費でもよいからと働きて来る今日の變りはたゞ世相を見ては轉た感慨無量であると同時にどうなるだらうと云ふ不安を懐くものはあながち筆者のみではあるまい、それが僅か十數年の間の出来事だ、之から先き十年たつたらどうなるだらう。

何がそうさせたか? 考へる迄もない一言にして之をつくらば其場主義の經營がそうさせたのである、又社會の制度の欠陥も大いにある、一体今日の制度は自分の事業を自分の手で喰ひ潰すが如きことは自衛上經營がやる筈がないと言ふ假定のもとに出来ている、之がそもそも自己を誤り社會を毒する根源である、全部とは言はぬが企業者の多くは自己の事業の内容が或程度以上に悪化するに整理を敢てするよりも内容悪化を極力彌縫して最後のドクン場迄外面糊塗に必死の努力をするのが常である、之は僕の體驗より見て間違ひはない、蓋し整理に着手すると言ふ事は其責任者の失脚を意味する、そこで萬一を憐憫して欠陥をひた隠しにして社會を欺瞞して其爲に假令事業を救ふ多くの人々に如何なる迷惑と犠牲とを負はす事を少しも意に介しないのである、そこで事業の整理を敢行すると云ふ事は企業者の自發的働きに俟つことは殆ど絶望であると言ふてよい、是非とも外部からの壓迫に俟たねばならぬ、こゝに社會組織の改善が必要となる一体過ぎ来たつた政策を見るに何を

目標として増産を奨励し、何を目的として進み、今日の如き不況に備へるに何の考慮を拂ふたか、總てが其場主義である、斯る事で今日迄やつて来たのには次の援助が有つたからである。

- 1、政府のインフレーション政策保護政策の爲に貨幣價值が漸時に下りたること。
- 2、大體十年毎の戦争で、例は明治二十三年の恐慌の後始末は日清戦争後の大景氣で、明治三十四年の恐慌は歐洲大戦の大景氣で事業經營の行詰りを救ふてくれた。
- 3、萬一の場合には政府が色々の救済手段で難關を凌駕させてくれた。

そこで之等に馴れて大正九年の大恐慌並に十二年の大震災による後始末も亦暫く無理を押し極力彌縫を續けて居れば景氣は棚ボタ式に來るものと空頼みして必要欠くべからざる整理を徹底的になすことを怠り其場主義の經營を續けて只管萬一の僥倖を夢見たのである、尤も事業が不況に陥り利益が減少するに至れば當事者は所謂産業合理化により賃銀給料の引下げ人員の整理等は先きにやるが肝腎の資本其ものは愈々押詰り二進も三進も行かなくなる迄は斷行しない、之を要するに薄氷上のスケートは氷が溶けてしまふまでは自發的にやめやうとしない、どうせ春草の夢を見るものは數あるであらう、之は之として今更どうにもしようがあるまい。

せめて今後如何にして如何なる觀念の許に製絲經營を進むべきであらうか。

- 一、製絲器械及技術は原料を超越する事を得ずと云ふ鐵則に則り、原料經營に立脚したる製絲經營を行ふべきである、然らざれば製絲經營は砂上に築く樓閣にすぎないであらう、

原料經營と製絲經營と損得を一つにする形態は理想である。

二、製絲經營を純加工の觀念のもとに經營する、即ちから繰糸釜へをモットーとし其間少しのロスもなからしめ、積極的工費の減少（能率の増進）消極的工費（使用費目の節約）の節約と相俟て生絲一定量に對する加工費を節約せしめ其間に利益を上

### 事變後に於ける滿蒙の動向と新國家の建設

在滿洲 湯川 秀夫

今や滿蒙の日支當事者は衆智を總動員して新滿蒙建設の大革命的事業にそれこそ文字通り日夜忙殺されてゐます。

昨秋本誌に二回計り滿蒙の動向を御報導しましたが新國家建設に當り纏つた滿蒙の指導原理を御紹介しておいた事は無益でないかと考へておりました。幸ひ我等青年一派の支持加盟して居る滿洲青年聯盟の次の解説は最も要を得て居ると思ひますから以下その儘を載せて皆様の御参考に供します（二月二日記）

#### 一 日露戦役後の滿蒙

十六世紀の末葉以降哥薩クの鐵騎はウラルの雪を蹴つて東を指しつた。やがて其劍光帽影が滿蒙の野に出没した。彼等の靈骨なる侵略經營それは直に日華兩國の運命を危殆ならしむるものであつた。日本が其の國力を傾け國運を賭して戦つた日露戦役は實に國家自衛上已むを得ざるに出づるものであつたことは周知の通りである。

當時の我國民は戦争前十年の間如

けると一方生絲品位の向上を計り兩者呼應して加工的利益を完全ならしむる事である。

僕は自分の體驗を基礎に具体的に記述したいと思ふて筆をとつたがどうも色々當り障りが出来てこんなところに落ちてしまつた貴重な紙面を塞いだことをお詫びする。

何なる忍従と苦心を重ねたかは茲に絞る迄もないことである。我等が今滿洲に在つて南山、旅順、奉天等到處に残された戰蹟を訪れ、其忠魂碑に刻まれたる數百千の英靈を拜し、殘された戰壕に立つて當時の苦戰を追想するとき餘憤尙減し難きものがある。然も斯の如き民族的大犠牲を拂つて勝ち得たものは何か、併して其の貴重な資は何れに歸屬せりや。

清國は全く失つた滿蒙の領土權を我國の犠牲によつて回復し得た。若し日露戦争が起らなかつたら無論滿蒙は露國の有に歸したであらう。或は謂ふ若し露國の有に歸して居つたとしても、露國の革命に際して支那は之れを回復し得たであらうと、支那が回復せざる迄も反帝國主義のソヴエートロシアは之を放棄したであらうと、併し夫れは餘りに理論に捉はれて現實を無視する公式論でソヴエートロシアは反帝國主義を稱へて決して帝政時代の權益を還附するものでない。

昭和四年八月に起つた東支鐵道事

件は其の適例である。東三省政府は武力を以て一時東支鐵道を回復したがロシアの一擧に遭つて忽ち敗北した。現在の東支鐵道は名目上露支の共同管理ではあるが本質に於ては依然として露國の經營である。一鐵道の利權に就て觀ても尙且然りである況や滿蒙が帝政露國の手に在つたならソヴエートロシアが之れを支那に還附せなかつたであらう事は今日沿海州を支那に還附せぬ事に依つても正しく推察することが出来る。

#### 二 列國の利權と我國の權益

日露戦争當時清國は露國と共に日本を對手國とする攻守同盟密約を結んで居つた。英文 Macnurray, Vol. I, P. 81 参照。

清國が直接參加せざる迄も、該條約に依つて露國に許した凡てのものは、戰敗國の當然の結果として無條件に我國の有に歸すべきであつた。然るにポーツマス條約に依つて得たものは單に長春以南の露國の鐵道と之れに附隨する權益並に安奉鐵道の經營權と關東州の租借權とに過ぎない。之れを獨逸の膠州灣の租借權並に濟南鐵道の敷設權、英國の威海衛の租借權、京奉鐵道の利權に比すれば國運を賭して支那の爲めに廣漠たる滿蒙の領土權を獲得した代償としては餘りに過少なものである。

列國の利權と我國の權益とは其の本質に於て大なる差がある。彼に於ては侵略的に支那より獲得したものであるが、我に於ては支那が既に失へるものを回復し併も其の大部分のものは支那に與へて居る。

視すれば、滿蒙に於ける我國の權益は正當且最少限度の權益であつて、清國の兎や角抗議すべき何等の根據も無いのみならず其後に於て滿蒙の領土權を得た漢民族が、我が既得權益を否認せんとするが如きは暴舉も甚だしと謂ふべきである。

三 支那青年將校の對日主戰論と軍隊學校に於ける排日精神教育

八月二十九日夕、在奉支那軍隊は聯合演習を奉天附近にて行ひしが「柴山顧問も之に参加せり。」

「近時支那青年は日本と一戰を交へ日本勢力を東北より驅逐すべしと論ずるもの多く之を抑へるに困難を感じつゝあり」と又其處に居合したる周廉、榮臻は笑話に裝ひ次の如く語れり。

「日本の軍人は實戰に經驗なき者大部を占む、支那は毎年の國內戰にて實戰的習練を経たるもの多し、此の點より見て支那青年將校は鼻息荒し」と、

又應聘教官矢崎少佐が最近遼寧省下の將校戰術演習に参加し軍隊、學校等を講堂に借用せる所、軍隊及陸軍諸學校の壁に貼付し或は壁間到處に講武堂訓練處印刷の次の如き排外事項を精神教育資料として掲げられたり。

- 一、凡以侵略主義待我三民族皆我之仇敵誓以頸血之
- 二、要誓雪國辱（學生十訓の第一項）
- 三、國耻地圖朝鮮、琉球等は悉く過去に於て支那領として示す

標語多く而して無智なる下級將校並下士兵卒の生意氣なるに驚きたり。

尙三十餘の小學校に於ても、校内外を問はず三民主義宣傳排日排外に關する繪畫を以て充滿しあり、特に日立ちたるは李鴻章が下之關に於て日本兵に銃剣を突き付けられつ條約に調印する圖なりき。而して小學生は屢々日本將校たる同少佐に問ふて曰く「日本は朝鮮を侵略せり次に支那を侵略するに非ずや」と

以上近時東北官憲の横暴は各種の事實之を示すのみならず、支那軍隊内に上述の傾向あるは大いに注意すべき事實である。

四 斯くして日支事變は勃發した

我國が滿蒙資源開發と文化向上との爲めに、或は鐵道敷設に、或は各種工業の興隆に、或は衛生教育施設の改善に鋭意努力したことに就いては事新しくこゝに云ふまでもないが今日迄に投じた大約十五億の資本と百餘萬の同胞の生命財産と條約に基く權益とは如何なる犠牲を拂つても飽くまで擁護しなければならぬこととは、假令我が國が二十餘年の間に滿蒙の地域を今日の狀態に導いた偉大なる功績を正しく評價することを好まない者と雖も之を否定することは出来ないであらう。

然るに中國は毫も我國と協調して俱に滿蒙の開發に努力しやうとする誠意なく、機會を捉へては我國に反抗し隨所に不快なる事件の頻發を見ながら最近に於ては寧ろ我官民を侮蔑する態度を繰り返すに至つたことは前項の通りである。而して遂に九月

十八日夜半中國正規兵の一部が奉天附近に於て滿鐵の線路を破壊し、剩へ我が鐵道守備隊を襲撃するに及んで暴狀は其極に達したのである。

東北四省の首腦者張學良は羽翼を京津地方に延ばしてゐるが、尙ほ滿蒙各地に駐屯する軍兵二十餘萬に上り蜿蜒七百哩に垂むとする。これに反し滿鐵沿線の守備に當つて居る我が守備隊は僅かに一萬四百名に過ぎなく。

國際道路の一部滿鐵線を破壊し、其數の寡少なるを見縊つて我が守備兵を攻撃した中國軍隊の暴舉が更に沿線各地に及んだ曉を想像すれば其の結果正に戰慄すべきものがある。

事茲に於て兩國國民の敵對意識が殆ど最高潮に達して居た昨今の緊圍氣中に在つて、一度攻勢に出た中國兵が我軍隊にして爲すなしと見た場合、衆を恃んで如何なる態度を採るに至つたか、此の時我が關東軍が急迫せる危害に直面して逸早く原因を除去すべく積極的行動を採つたことは誠に止むを得ざる自衛行爲でなく何であらう。

是れが抑も今回の滿洲事變の發端即ち我が生命線確立運動の緒口となつたのである。

**五 思ひ起せよ日清間の秘**

**密議定書第十條**

明治三十八年十二月日露戰爭後の滿洲善後處置の爲に開かれた日清交渉に於て、條約及附屬協定が成立したが此の時同時に作られた秘密議定書は、今日滿洲を見るに當つて忘れらるゝことの出来ぬものである。即ち議定書第十條の全文は左の通りである。

**第十條**

清國全權委員は日露兩國軍隊の滿洲撤退後清國に於て直にその主權に基き該地方に於ける平和を保證すべき十分なる行政手段を講じかつ利を興し弊を除き着實に秩序の回復に努めもつて該地域の居住者たる清國人及び外國人は等しく清國政府の完全なる保護の下に生命及び職業の安全を享有し得べきことを聲明す、秩序回復に關しては清國政府自ら適宜の措置を講ずべきものとす。

右の條文を熟讀すれば支那は滿洲の治安を維持せねばならぬ義務を日本に對して負つてゐるものである。而してこれに支那が違反したる時に如何にすべきかと云ふことは書いてないが、事實上日本が滿鐵及び附屬地保護の爲め兵を派して居る以上、支那自ら治安の維持に當る事に失敗した場合、日本として支那の違約を責めると共に代つて治安の維持に當る權利が生じて來るのは當然である。

故に滿洲の政治的首腦者または政權者にして、日本に非協同的態度を取る者に對しては日本はこれを拒否する權利あると云ふことを明言して差支へないものである。

これを如何にも秘密議定書に違ひなく世間にも發表されなかつたものであるが、誰が何處から洩したのか今日ではマツクマレの條約集初め他のものにも載せられて居るのである今日となつては決して秘密議定書ではない。

従つてかうした歴史的記録を活用する爲めには、我が外務省が率先して全國國民と協力して滿洲の解決に善

處する爲め、強固なる決意の下に進退すべきことは當然の行爲である。

**六 事變後の推移及動向**

現奉天市長趙欽伯氏は、昭和六年十二月十三日奉天省が獨立を宣言してより、日々に整備され行く社會各般の施設と民衆の平和なる生活を祝福して、左の如き演説を日支兩國語で放送して居る。

「世界文明國の國民たる諸君、若しこゝに一人の男が居り、毎日晝間は睡眠し、午後三時か四時頃になつて初めて目醒め、目醒めた後はモルヒネの注射をなし、其の注射に依つて初めて元氣になつて婦女を弄び、或は賭博、或は猥談をなし、正しい言葉を決して聞き度くない、夜を徹して遊び朝の七時になつて漸く床に就きます。其の性質は非常に残忍で、怒る時は隨意に人を虐め或は虐殺する時もあります。

諸君、斯様な人に逢ふ時は、彼れを何んの役に立たせるでせうか、彼れを貴君方の召使ひとして用ひる事は出来るでせうか、或は彼れを貴君方の秘書として用ひる事は出来るでせうか、或は彼れを貴君方の長官として尊敬する事が出来るでせうか、恐らく貴君方も至極困難な事であるだらうと思ひます。

然し右に述べた人物は現代に存在して居るだらうか、と貴君方は一種の疑問を抱くかも知れません。諸君今日迄東北四省の政權を握つて居た張學良は即ち斯様な人物でありませぬ。

誰れでも召使ひとしてすら使はれない様な人物が東北四省の政權を握つて、人民の膏血を搾取して彼れ一

人の歡樂の爲めに供して居たのでありませぬ。彼一人の欲望を満足するが爲めに東北四省の人民に對して兌換し得ない紙幣を發行し、この紙幣を以つて農民が終日致々として働いて作つた糧食を強制的に買占め、外國の價値ある紙幣に取換へ、自分の私有財産にするのであります。又任意に人民に對し、人民が負擔する力がない程の税金を強制的に徴收して鐵砲彈を買入れ、數十萬の同胞を虐殺する軍隊を養ひ、彼れの地盤を擴張して彼れの勢力を増加する事に供するのであります。殊に部下の美貌なる妻女を侵し、又萬惡の爪牙を以つて良民を虐めるのであります。彼れの私有財産は日に日に多くなり、彼れの軍隊も亦日に日に増加すると同時に東北四省の人民は日に日に貧乏になるのであります。最近三、四年以來東北四省の人民中に或は逃亡し、

**劍戟の巷**

**から**

蕉

九月二十三日、今度の滿洲事變の突發直後自分は社命を兼ね、且つは豫ての念願により豫定通り一ヶ月許り歸省して來た。その際、母校諸先生並に各地の同窓各位に一方ならぬ御厄介になつたのであるが歸任以來それ等の方々に一應の御挨拶も済して居らない。理由は稍もすれば氣分偏重に墜入つて氣が進まないといふ手紙一本書けない悪癖と、いま一つは歸任以來若し万一の事があつてはと、その万一の事が氣にかゝつて自分のやりかけてある仕事を是非片付けて置き度いと云ふ氣持から自分の現在持

つて居る精力の殆ど全部を仕事の方に投げかけて居たからである。

今日、幸ひにそれ等の事の大部分を了り一息吐いた處であるが既に年末を叩へ、且つは當處數日は新聞紙でも傳へらるゝ通り例の錦州方面の最後解決をするために隣接地である吾々の土地も當然、一動搖は免れない。旁々これが大晦日までも豫定しても自分は歸省中御厄介になつた各位に手紙一通宛でも書ける自信は持てない。この一文はこれの代償と云ふ個人的意味も含めたけれど在滿同窓の最近の一生活様相を報告すると

或は餓死する者あるが、彼れは毫も憐む事をしない、又東北四省人民の膏血を以つて入關して彼れの一人の發展向上を求むるのであります。つまり彼一人の欲望に満足するが爲めに東北三千萬民衆の生命財産の安全を犠牲にするのであります。彼れの惡事を輔佐する人は等しく彼れの賢臣良反なりと認むるが、彼れに對して惡事をやめて善政を施す事を忠言する人を等しく排斥するのであります。彼れが東北四省の軍民の首腦者になつて以來茲に四年でありませぬが、人民は家をつぶされ、財産をなくされ、商店は大損害を蒙りまして、閉店する者は數ふるに過ぎない程であります。故に東北三千万民衆は恰も地獄の中に居ると同様でありまして、悲惨なる生活の外何物もないのであります。(以下次號)

云ふ意味も含めた。

猶、在満同窓中、安孫子、長田黒木の諸氏は關東州内居住であるから勿論平穩な生活を送つて居り。湯川氏は最近千曲時報に再々記事を寄する通り健在。清水君は鞍山に居住。目下の處は同窓中一番危険を感じる(この字句注意)場所に居る譯なれど。最近新婚ではあり至極健在。池田は斯く云ふ筆者、林さん、金さんの御兩所は奉天、長春在住、同様御健在の由傳へ聞いた事を附記して以下を本文とします。

「安奉線、秋木莊驛、匪賊に襲れ、柳田驛長、頭部に貫通銃創を受け殉職！」自分は愕然として起きた。遂々、遂々……。」

胸を過ぎる感慨は只、意味もなく同じ所をグル、グルと廻る。柳田氏は自分とはたゞ同じ満鐵社員としての連繋がある許りで、一面の識もない人だつたが！

兎も角も事變以來一事災厄と危険に曝された人達は軍部の將卒と、戦地に派遣された満鐵々道部員と。中間小驛の人達だ。

滿鐵中間驛の勤務、これを知つて戴くのもこの際無意義ではあるまい。

其處は内地の鐵道とは異つて驛と驛との極めて長い。例へて云へば今度驛長の殉職した秋木莊は隣驛の鶴冠山に一四、二軒家河までが六五軒もある。勤務員は驛長、助役、各一名に二、三の人達が力を協せて働いて居る。

若し山間の二、三〇戸の寒村(それも支那人の)一隅に赤煉瓦の小さな住宅を四、五並べて想像して貰へ

たらそれがそのまゝ悲惨事の起つた秋木莊の姿でもあり滿鐵中間驛の全部の姿となる。

だから其處では兩手の指十本を折きらぬ中に在住日本人の總ての人の數は盡きる。

南北に通ずる數本の電線も事の起る前には眞先に切斷されるから頼りにはならない。將に無防備以上！

悲惨事は常にこれ等の人の明日に豫約されて居る譯だ。そしてこれ等の同じ運命は比較的大きな箇所に住んで居る自分達の明日の日に豫約されて居らぬと誰が云へる？

約一ヶ月許り前だ。

自分はその日は定刻より早く出勤して計算器に齒齧みついた。幸ひに時の経過を意識するには仕事に熱しすぎて居たのでその時まで知らずに居つたのだけれど正午近くだつた。

誰か這入つて來たらしかつので見ると平常畏敬するT君だつた。斯ふ云ふ命令だつた。

「芭家屯(熊岳城の次驛)附近に約一〇〇〇名の馬賊が現れた、現在守備隊は全部鞍山方面に出動中だから富子居の兵三名しか居ない(常時は一ヶ中隊駐屯)警察の方は總出動して了つたら一人も居ない。で晝食を食つたら直ちに君は自警隊の第一班に加つて警備任務に就て貰ひ度い。警備本部は警察派出所。」

空は珍しくドノリした變な日だつた。警察署に集つて見ると情報がまち／＼で何が何だか譯らない。匪賊數は二〇〇位だとも云ひ一〇〇〇だとも云ひ一六〇〇位だとも云ふ。

その中に此處の俱樂部に芭家屯から避難して來た婦女子の群が不安な姿

を見せる。匪賊は迫撃砲を持つて居る巡查が三名斃されたと云ふ情報がある。

夜になつてから雪になつた。自警隊員總出動となつて自分達は附屬地の北端を少し離れた煉瓦燒場に陣取つた。時々砲聲が聞えた。可成り寒い晚だつた。煉瓦燒場の頂上に歩哨に立つて見ると夕方から降つた雪明りで地平線の方まで明瞭に見える。

雪の多い上田に育ち乍ら雪の夜の地平線を初めて見た。丁度、月明に海に臨んだと同じ様だつた。犬の遠吠へが氣味悪く聞かれた。然し實弾を籠めた冷たい銃器を握つて歩哨し乍ら考へた事は斯んな事だつた。

「こんな處で歩哨したんぢや敵から狙ひ撃ちだ。マゝ然し俺達が實弾射撃演習一生懸命狙つても二、三〇點なんだから、斯んな時は敵だつて相當興奮し乍らそれも數百メートルの處からぢや當るもんか！」ヨシ、いざとなつて俺は卑怯な眞似はしないぞ、」

余りに打算的な「覺悟」と「悟り」だと思つて自分は今これを書き乍ら自らを憫笑して居る。

幸ひにその夜の寒さに惱まされた外は匪賊の影は見せず、徹宵の警備の上翌日改めて要所に塹壕を掘り、土嚢を築いて一先づ自警隊を解散した。……。」

賊團二〇〇、我警官隊部に負傷一名。賊の死体三〇許り迫撃砲一門、銃器若干遺棄逃走、これが真相だつた。「松柏後凋の心」が、僅かにこれだけの事件で随分と馬脚を現した奴がある。右往、左往、自分の位置も職も外聞も忘れ、醜態を曝して歩いた奴が在郷軍人何とかであつたり、

余りの興奮の結果か自己の進退の時を忘れたり、然し余り大きな事は云はれない。幸ひに匪賊の一姿すらも認めなかつたから良いにしろ、若し敵襲があり最初の銃丸が飛んで來た直後に於いて果してこの俺が馬脚を現はさないと誰が云へる！

遮莫、自分は今事變の渦中に生きてつく／＼自分が從來余りにも小市民的であり、平和の民であつたかを痛感して居る。今、奉天にあつて新政權の樹立に側面からも如何に熱烈なる努力を捧げられて居るか？如何に犠牲的な奉仕がなされて居るか！一介の白面の青年が如何に死を辱して働いて居るか！

斯かる時、自分は實驗室内に計算器のハンドルを廻し、赤線を引いた原稿用紙を一枚一枚汚して行く自分の姿を時に憫笑しつゝ眺める事がある。一面これを憫笑しつゝある自己の姿を更に苦々しく冷笑しつゝ。

「レマルク」の「その後に来るもの」はまた別の意味に於いて反省させられる。原稿用紙を一枚一枚汚しつゝ自分の胸裡に去來する一種法悦にも似た學的推理の眞最中にさえも「匪賊來」の一報によつて一切の吾々の價值判斷の標準は根本から叩き潰される。

「血と本能によつて動け！」

その瞬間から自分は平常には思ひもかけぬ目的のために従つて全然馴れて居らない生活様式と生活態度をとならなくてはならない事になる。自警隊の一兵卒としての忍従には馴れるも、この心の態度の轉換に馴れるのは容易でない。幸ひに「日本人の魂は持つてゐるんだ。」と云ふ自覺が外

面は糊塗して呉れるが……。」

國亂れて山河を懷ふ切實。郷國を離れ唯一の頼みは母國の政府の態度の毅然として明瞭なるにあるのにその際の政變來、然もその影に財閥の姿がチラ／＼する様な政界の雲模様

に流石の自分達も暗然として聲を呑んだ。

「事變を契機として政黨の利欲による國際的醜態さえも曝露された」との流言は吾等を惑はせる。

吾等、何處に行く？

劍戟の巻に、表面上は如何にも安定した母國の政局と母國の國策の裏面を不安な面持ちで眺める在満同胞！

然し結局の安心立命の境地を求むるならば自己心境の革命を惜むて外にない。

自己心境の革命。生活環境の動搖に煩はさるゝ事なき毅然として高き心的境地の樹立。これは必しも滿蒙新政權樹立の實際運動に比して必ずしも容易な業だとは云へない。そして斯かる革命的機縁を興へて呉れた事に對しては事變そのものに感謝の意を捧げても良い。

事變の渦中に殘されたる聖業。余りに小市民的な、余りに平和時代の民だと自嘲した自分にも斯ふした分野を殘された事を知つた自分は今却へつて幸福である。

「その後に来るもの」

その後に来るものに狼取せず自らを處して行くだけの覺悟は出來たと同窓の知友諸兄に誓へさうだ。

昭和七年度千曲會經費收支豫算書廣告

一、會費	二、基本金		三、雜收入		四、寄附金		五、繰越金		合計
	通常會費	終身會費	基本金利息	印刷稅	廣告料	雜收入	寄付金	繰越金	
三〇〇〇〇	二九〇〇〇	二九〇〇〇	四四五〇〇	四四五〇〇	二四〇〇〇	四〇〇〇	一五〇〇	二〇〇〇	三七六五〇
二八〇〇〇	二八〇〇〇	二八〇〇〇	六二〇〇〇	六二〇〇〇	二〇〇〇〇	四〇〇〇	一〇〇〇	五〇〇〇	三八三〇〇
(+)	(+)	(+)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一七五〇〇	一七五〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	六五〇〇	八〇〇〇	

  

一、會費	二、基本金		三、會議費		四、事業費		合計
	旅費	雜給	集金費	代講員會費	役員會費	雜補助費	
二〇〇〇	二〇〇〇	一七〇〇〇	二四〇〇〇	一六〇〇〇	四〇〇〇	一四二五〇	二二五〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一七〇〇〇	四〇〇〇	一六〇〇〇	四〇〇〇	五五〇〇〇	二〇〇〇〇
(+)	(+)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
八〇〇〇	八〇〇〇	一七〇〇〇	一七〇〇〇	一六〇〇〇	四〇〇〇	二〇〇〇〇	一〇〇〇〇

臺北に於ける集り

田中 亮

それは昨年十二月十日頃だつた。生ひ茂つた棕櫚の梢の縁が窓にうつる實驗室で僕等が煙の解剖をして居た時に庶務から一通の電報が届いた。K君宛のものだつたので彼氏わなしく胸を押へて開封したら豈はからんや母校K先生發信で「十五日着臺に變更す」の意味であつた。K先生が今時渡台するとは腹耳に水と兩人は顔見合せた。よく考へると母校も二學期の試験も初まる頃だし就職運動で臺灣まで侵出する事もありさうの事と大体合點がいつた。とにかく豫報が少しも出ないのだつたから突然渡臺が決めたのだらう。そして十五日着に變更すのであるのだからこの電報前に出した手紙が遅れて今日明日着くのだらうと考へた。僕等は生憎く十九日一課目試験があるがそれ迄我まんしてもらつて濟んでからお供し様と少なからず期待した。

その翌々日案の通りK君宛にK先生から手紙が来た。それによるとK先生の渡台に非ずして先生の殊に親しい級友の一人先賢T氏と氏と母校S教授の助手たりしM君とが原蠶飼育に渡台するから宜しく頼むとの文面であつた。今頃突然K先生が押寄せるとは少しおかしいと思つたと二人で笑つた。殊に僕はこの夏K先生に合つて来たがK君は二年近く會つておらぬから彼氏の胸中や多少の複雑のものがあつたらう。

(六面へ続く)

特別會計

(學術雜誌編輯費豫算)

Table with columns for '收入之部' (Income Department) and '支出之部' (Expenditure Department). It lists various financial items like '同窓會補助費', '印刷料', '雜誌送料', etc., with corresponding amounts in yen and cents.

來信

上海より

中澤周藏

拜復

着台されたそして豫想以上仕事の上で總督府で歓迎されたとの事で私共も何より嬉しかつた。この所南國臺灣の同窓生の現在數六人である分けだがT氏は一ヶ月許りで内地へ歸へられるからやがて又五人になる。なんとか臺灣支部は出来ないもんか。そこで台北におる同窓生四人と來台されたT氏とで忘年會が開かれたのであつた。臺北に於ける恐らく今迄では同窓生集合の最大のものであつたらう。主催者は小泉さん會場も同氏宅時は僕等の試験の済んだ次の日の日曜日時間は午前十一時より、その日はさすがの台灣も冬らしく外は大屯山おろし吹きすさび粉雪亂れとぶ寒空と云ひたいがまさかそんな事はあり得ない。

會の進行につれて我先輩T氏の顔は良い色を見せ初めると母校の第一二回頃の卒業生の追回談や氏の經驗談等を面白く語られた氏は若い時からうまかつたか知らぬが話しぶりが實にうまい。單純の事實も花や藥をそへて興味深く話される。年をとると誰もあるうまくなるもんぢやないものかなあと考へた。とにかく先輩の話はおもしろいものだ。昔の母校の先生田中長三郎氏に話はとんだ。田中さんは今ぢや甘橘の權威臺北でも田中さんの講義には學生がわんざわんざださそうだ。田中さんの官舎は小泉さんの直ぐ近くののだ。T氏も田中さんの事は殊になつかしげであつた。田中さんも上田の卒業生の事はかなり關心をもたれるそうだ。會は五時頃了つた。殺風景の臺灣にある僕等にとつて無上におもしろく且楽しいものだつた。

上海事件の如きも二十八日午後六時を期したる我海軍の最後通牒も僅か三十分の期限前に承認し來り候へしも一面には着々戦備を備へ居り候支那の二重外交煽動し切つたる民衆の増長驕慢は到底内地に居らるる方の想像し得ざるものに有之候二十八日夜事件發端の當時も既に一萬數千の兵を租界境に進め居り、先方承認にせる條件を履行すべくエキステンションの支那巡警の撤退武裝解除をなさんとして行動を起したる所すつかり準備せる敵の便衣隊により忽ち夜襲され直に戰鬥行為が開始され候へしも當夜は僅か二千名程の陸戰隊なりしと先方は家屋により地理案内詳しきことと到底掃蕩出來ず、寧ろ押され氣味にて早くも手不足を訴へ未明には在郷軍人、同文書院の學生等應援に出て土襲作業に従事して戦録の維持をなし更に樂觀すべき情報なく不安の一夜を明かし候

(七年一月一日夜)

母校だより (二月中)

大日本主義に就ての講演(六日) 國學院大學、早稻田大學教授松永村氏の「大日本主義に就て」と題される御講演が本校辯論部主催で母校新講堂に於て行はれた。氏はマルクスの労働は價值を作るの問題より入り「マルクス論は經濟學でも亦哲學でも無くて寧ろ政治學とも言ふべきものであつて彼は猶太人なる故に斯の如き論を吐いたのである、だが我々は昔から立派な國と云ふものがある吾人は須く我國民性の由来を尋ね大日本主義に生きねばならぬ。」と午後二時より三時間に亘つて論ぜられ本校職員、學生及び中學、蠶業の生徒其他多數の聴衆は其の勦力ある熱辯に酔ふた。

縣下中等學校柔道大會(七月) 本校柔道部主催縣下中等學校柔道大會が午前九時から母校道場に於て舉行された、當日参加校は長野師範、中學五校、實業學校六校計十二校参加選手約百名で東京から飯塚八段、長野から廣岡六段が出席され非常な盛會であつた、戦績は左の通りである。

準決勝 松本中學二勝、屋代中學一勝、長野中學三勝 優勝戦 長野中學二勝 終つて引き続き午後三時から初段、二段、三段の昇格審査會が開かれた。校友會主催卒業生送別會(十三日) 送別會を行ふ時期としては稍早いが、感がないでもないが試験前に行ふのがいつもの例である。川上五郎君(系二)が閉會を宣し熱辯をふるつて最も多難なる時期に卒業

さるゝ長兄の前途を祝福すれば岩田恒次君(紡三)之に答へ母校の名譽を誓つて破らざらんことを期し、校長の訓話井上右倉兩教授の所感があり終つて餘興に移つた。學生諸君の隠し藝には垢抜けした友人もはだしと云ふ美技が續出し、聲色あり、劍舞あり、琵琶あり、民謡あり中には人物試験に出かけて試験官を煙に巻いたと云ふ氣焔を上げるものあり等々渾々として盡くる所を知らなかつたが今度は各先生にお鉢が廻つて如何しても一節を公開しなければならぬ所迄問ひつめられて了つた。其所で演出されたプログラムの御披露に及ぶと一針塚先生、映畫説明「月形半平太」一石倉先生、自作基礎節「佐藤利一先生、菅平スキー小唄(アノコール二回)」蒲生先生、サノサ節「遠藤先生、米山甚句」岡先生、應援團長の所作「小澤先生、馬賊の歌」井上先生、螢の光「目崎先生、忍終不悔の歌」出田先生の所感。以上

鹿島農學校教諭 川島熊太郎君(蠶十二回) 長野縣蠶業取締所福島支所技手 西原 淳一君(蠶十七回) 會員はもつと澤山あるかも知れないが報告のあつたのは以上である、各支會に照會中であるから遠からずはつきりしたことを御報告することが出来ると思つて居る。

三年の學生は講義も二三日で終ると云ふ所迄來て居るから多分卒業證書は下附されることとなるであらう、家庭の境遇から云ふと實に同情すべき實情にあるから在校生は鋭意後顧の憂ひを絶つべく努力する覺悟である。

一同上田停車場に見送り此の際に於ける校長の激勵の辭は聲涙共に下り悲壯を極め鬼神をして泣かしむるの概があつた。四氏共元氣一杯目出度く入營せられた。

學生の愛國行進 學校から出征者を出して一層時局に刺戟された學生は二十七日以來毎夜街頭に立つて聲を傾らし出征者家族の慰問基金を募集し之を市役所に奉納して居る。其の金額は已に百三十圓を越えて居ると云ふことである。

著書二卷 最近母校教授の著作に於ける教科書が二冊上梓された。一は佐藤利一教授著「中等教科蠶病學」一八三頁定價八十錢で巻末に攝華氏換算表、必要な關係法則を附した横書きの頗る体裁優美な教科書であり、一は蒲生俊興教授著「統合新制蠶業教科書」三三六頁定價一圓二五錢で蠶業に關する百般即ち飼育生理解剖は勿論製絲天柞蠶人造絹絲迄悉く網羅したもので同教授著「最

新養蠶學教科書」の姉妹編とも云ふべきものである。此の二著とも最新の學說を掲げ、合理的に教材を配置し、重要性の取捨を誤まらず著者頭腦の閃きが現れて農蠶學校方面の最も好教科書たるを失はない。

職員は移動一阿形、石倉兩教授並に小澤書記は何れも本官を廢められ、講師又は囑託となられた。小澤丘助教授は全く退官せられ東京の母校なる高等師範學校に於て一層斯道の研鑽を積まれる由である。小澤助教の劍道は長野縣下一品で之に比肩すべきものなく母校の劍道部も亦氏によつて斷然他をリードして居つた同氏の退官は實に惜別に堪えない。

住所の移動及訂正 (二月中)

- 久保田正樹 蠶三 長野縣蠶業試驗場松本支場(松本市旭町)
門田秀太郎 蠶十 昭榮製絲株式會社沼津工場(静岡縣沼津市)
小山 哲夫 蠶五 本校生物學教室
竹下友之 蠶五 山本ト改姓
橋本 博 蠶七 本校養蠶科
本間 國夫 同 新潟縣岩船郡村上本町
王 福山 同 本校生物學教室
田村 亮 同 長野縣小縣郡泉田村吉田
瀧口 昇 同 本校養蠶科
青木 幸雄 同 那根製絲株式會社原料課(京都府綾部町)
金 炳龍 同 朝鮮平安北道義州郡義州面西郡洞一四一番地
尾崎 利雄 蠶六 長野縣小縣郡神川村若久保一三三番地
太田 元 同 高崎步兵第十五聯隊第七中隊幹部候補生
若林 爲夫 同 千葉縣國府台野戰重砲兵第一聯隊第三中隊幹部候補生
河野 芳春 同 那根製絲株式會社白柞工場(大分縣佐伯町新道)

- 河田 榮一 同 高崎步兵第十五聯隊留守隊第三中隊幹部候補生
水野 敏夫 同 水戸工兵第十四大隊第三中隊幹部候補生
小笠原振一 糸四 生絲検査所(横濱市中區北仲通五丁目)
佐藤 金六 糸五 半田製絲研究所(横濱市中區太田町)
佐藤 種雄 糸六 江商株式會社(横濱市本町一丁目十四番地)
吉岡 道真 糸七 半田製絲研究所(横濱市中區太田町)
好士 泰造 糸八 生絲検査所(横濱市中區北仲通五丁目)
大池 登 糸八 同 上
淺井 春夫 糸八 濱松市松江町一二番地
鹽田 健介 糸十 木曾川製絲株式會社木曾川工場(愛知縣栗原郡木曾川町)
岩田重左衛門 糸十 昭和七年一月十七日死亡
渡邊 兼光 糸十 群工商會研究所(群馬縣高崎市飯塚池水社工場前)
和田 虎三 糸十 那根製絲株式會社工務課(京都府綾部町)
梅澤治三郎 糸十 紡織製造株式會社(神戸市葦合區臨濱町)
島原友之助 糸十 神榮生絲株式會社(神戸市柴町通三丁目)
細田 親二 糸十 水内社(長野縣下水内郡飯山町)
鈴木 鼎 糸十 吉井ト改姓
萩野 喜次 糸十 生絲検査所(横濱市中區北仲通五丁目)
山口喜一郎 糸十 同 上
鈴木 玄九 糸十 神榮生絲株式會社信濃工場(松本市外島内村)
小林 榮夫 紡二 長直ト改姓
細井 滿 紡十 生絲検査所(横濱市中區北仲通五丁目)

辭令

朝鮮總督府道理事官正七位 朝倉 昇 任朝鮮總督府道事務官(二月十三日內閣)